

会員の広場



ゼノフォビアから“合衆”の仲間入り

岸田 勇二（東京）

ひと昔前になりますが、三回にわたり約15年米国に駐在しました。米国と日本を行き来し、今現在退役凡人になり、切に思うことは日本の行く末です。人口の99%日本人、日本語、島国、鎖国の歴史、純粹培養的単一民族が敗戦から世界有数の先進国になりました。

ち6、500万人が故郷を追われた人々です。欧州諸国を中心に、もう一国では対応できず80か国以上の首脳、関係者が参加しました。NY宣言が採択され、地球規模の道筋が確認されました。日本も参加し、いくばくかの資金支援を約束しました。アジアでも火種が燻っており、いつかは移民難民の受け入れを他の先進国並みにやる必要があります。それを前提にした身の処し方は、乱暴ですがゼノフォビアから脱却し、地球人としての精神とスキルを身につけ、避けて通れない“合衆”の仲間の一員として“新しいリーダーシップ”を発揮することではないかと思う次第です。すでに“合衆”の国として欧州、シンガポール、そして米国など存在します。特に若者

しかしながら、陰で金持ちで恥ずかしがりのゼノフォビア（外国人恐怖症）と言われ、地球規模の変化、潮流に対して鈍感、関心が薄い、一方で御しやすい国民と思われると思います。米国は移民の集合体で、自由と個人主義、多種多様な人種が創った“合衆”国です。国策利益と深くかかわっていることもあり世界の動向には大変敏感です。

日本の現状を延長して行末を考えると空恐ろしいものがあります。思い切って地球規模での“身の処し方”の覚悟を決める時期がそろそろ来ているかなと思います。

今年9月19日NYで初めての移民難民に関する国連サミットが開かれました。昨年2億4,000万人の移民難民が存在し、そのう

たちには日本を飛び出し、この視点で生活してみたいかがでしようかと勧めたいです。何十年かかるか判らない想像を絶するいばらの道ですが。これは国の話でなく日本に住む一人ひとりの行く末についてのテーマになると考えます。地球規模で“当たり前”の生き方をするにはこの程度の覚悟がポトムラインではないかと思う次第です。

最後に、日本人は御しやすいという印象を持たれています。オリンピック委員会のパッハ会長訪日時の日サイドの対応、報道機関の取り上げ方を見聞きしますとやさしさと異なる軟さ、主体性の弱さが垣間見え、憤りを覚えました。皆さんにはどう映りましたか？ 民度の問題あるのでしょうか？